

# 大腸癌研究会プロジェクト研究

## 『直腸癌における肛門側切離端までの距離と

## 外科剥離面までの距離に関する多施設前向き観察研究』

### 第9回委員会 議事録

研究代表者：伊藤雅昭

期日：2023年1月26日（木）14:15-14:45

場所：場所 浜松町コンベンションホール 5F メインホール ※ハイブリッド方式

出席者：濱田円、池田正孝、小杉千弘、中島紘太、島田能史、堀越琢郎、市川 伸樹、黒木嘉典、田中慶太郎、小菅誠、井上明星、黒川弘晶、神山篤史、沼田正勝、外岡亨、上田和毅、山本大輔、三浦卓也、盛 真一郎、幸田圭史、福田純也、山岡雄佑、高雄美里、大熊誠尚、合志健一、岡本耕一、大沼忍、小嶋基寛、那須克宏、池田公治、伊藤雅昭

【順不同】 【敬称略】

#### 議題 1. この3年間の活動報告（千葉大学放射線科画像診断センター 那須克宏先生）

海外では標準的に行われている直腸癌のMRI画像診断が本邦では行われていないことから、この3年間で様々な学会や研究会で直腸癌のMRI画像診断の重要性を説明してきた状況を報告。また、本研究で作成した直腸癌のMRI画像診断のレポート内容について実際の症例を画像診断しながら説明した。

#### 議題 2. 前回からの進捗報告（国立がん研究センター東病院 池田公治）

2023年12月31日時点でIRB通過施設が42施設(前回から+1施設)、症例登録数が551症例(前回から+119症例)である。症例登録期間は残り15か月であり、月に31.4例の登録が維持できれば2024年3月末までに1000例に到達できる見込みである。現状では月の登録症例が30例未満のため、各施設において1~2例/月の登録をお願いした。

#### 【質疑応答・意見】

・石川県立中央病院寺井先生から本研究では切除標本の肛門側を伸ばさずにピン固定することから今までよりもDMが短くなる傾向にあるがそれで良いのか？

(事務局からの回答)

今回の切除標本の取り扱いの世界標準に合わせて欧州が標準的に行っているイギリスの

Quirke 先生から示されている **The Royal College of Pathologists** に基づいて標本作成を行っており、そこには標本の肛門側のピン固定を自然な長さで固定しなさいと記載してある。本研究では、術中に意図した DM の距離、切除後の DM の距離、ピン固定後の DM の距離、病理学的 DM の距離と DM を複数回計測することから、切除後に縮むと言われている DM の距離がどのように変化していくかも研究のテーマとして扱ってなおり、この点も最終的に解明したい。

文責：池田公治